

地方的経験の正しい公表と正しい評価の必要性

エヌ・オシンスキーへ

- 一、『プラウダ』編集局へ
- 写しを 二、同志ステクロフへ
- 三、ルイコフとツェルーパーへ

1922年4月12日

同志オシンスキー！

きょうの『プラウダ』にのった君の論文『地方の経験の新しい資料』を大いに歓迎する。われわれにもっとも欠けているのは、ほかならぬこのような論文だ。私は、各人民委員部内に、このような概観をおこなうため、政論家（人民委員部および人民委員の活動と緊密に結びついた）を「入れる」べきだと考える。

われわれの最大の短所は——地方的経験の研究が極度に不足しているにもかかわらず、定期刊行物のなかで、一般論と政治的空騒ぎとがあまりにもおびただしいことである。地方でも、上層部でも強力な諸傾向が地方的経験の正しい公表と正しい評価に反対している。内輪のあらを表沙汰にするのをおそれ、赤裸々な真実をおそれ、「ほんの一瞥ぐらいのところ」で、上つらを見るだけで、この真実をはらいのけようとする……

地方的経験、細部のこまごましたこと、実践、実務上の経験の研究に、さらにさらにいっそうの具体性をもつこと、郡の生活も、郷の生活も、村の生活も、現実の生活をふかくきわめ、底なしの貧困と零落にもかかわらず、たとえ大きな改善ではないにしても現実の改善を、どこで、だれが、なぜ（どのような方法で）達成することに成功したかを検討し、誤りと無能をあばくことをおそれず、地方のすこしでも優秀なすべての働き手をひろく知らせ、全力をあげて広報し、これを模範に推すこと。このような活動が大きければ大きいほど、官僚臭の強い、インテリ臭の強いモスクワ的な（一般にソヴェト・ブルジョア的な）空気から自分の注意をも読者の注意をもそらせながら、生きた実践をふかくきわめればきわめるほど、われわれの定期刊行物の改善も、われわれの建設全体の改善も、ますますうまくすすむだろう。

君の創意をかさねて歓迎するとともに、同じ方向へさらにいっそう、ひろく、深くそれをおしすすめられるよう、切望する。

注)……は本文中の表記

共産主義者のあいさつをもって レーニン

第36巻『エヌ・オシンスキーへ』P683～684

1922年4月12日